

CV カテーテルによる深在性真菌症を患った 80 歳男性

宇治徳洲会病院初期研修医 2 年次 今泉 健

喜界徳洲会病院での研修中に CV カテーテルによる深在性真菌症の症例を経験したので症例報告を行う。

症例：

高血圧既往、ADL 完全自立の 80 歳男性。大酒家であり急性膵炎を繰り返している。

平成 23 年 3 月 11 日より、誤嚥性肺炎にて入院・加療中であった。肺炎は軽快傾向であったが、入院後の CT にて膵仮性嚢胞を認めたため、3/26CV カテーテル留置し TPO 開始。4/4 エコーガイド下嚢胞穿刺施行。その 2 日後から不穏・熱発(38.9)・上腹部痛・胆汁性嘔吐を認めた。同日の検査にて血清アミラーゼ上昇、単純 CT にて膵周囲の脂肪織濃度上昇認めた。経過も考慮し急性膵炎として、血液培養採取後、外液輸液・MEPM・蛋白分解酵素阻害薬(フサン)開始した。

一旦解熱傾向あるも再度上昇。急性膵炎治療開始後 4 日後に CV カテーテル抜去。5 日後に血液培養から真菌が検出された。真菌は *Candida parapsilosis* と判明。その後、CV カテーテル先端からも同菌が検出。CV カテーテルによるカテーテル関連菌血症(CRBSI:catheter-related bloodstream infection)と判断し、深在性真菌症にのっとして加療を行った。以後、合併症も認めず退院となった。

カテーテル関連菌血症(CRBSI)の診断方法、本症例における治療開始のタイミングについて検討したい。